

アクバ城



アクバ城；
ヤムナー河畔にそびえ
る、ムガル帝国3代の
居城。
16世紀から約300年間隆
盛を極めた。

赤い砂岩で作られ
「赤い城」と呼ばれ、
皇帝の巨大な権力の
象徴でもある。

城壁が高さ20m、
周囲約2.5 k m

世界文化遺産



ムサンマン・ブルジュ；

息子より幽閉された
シャー・ジャハーンが死
ぬまでの8年間暮らした
という望楼。

ヤムナー川越しに彼の妻
の廟であるタージ・マハル
を望んでいた。

ムンバイ



インド門 高さ26m 1924年完成



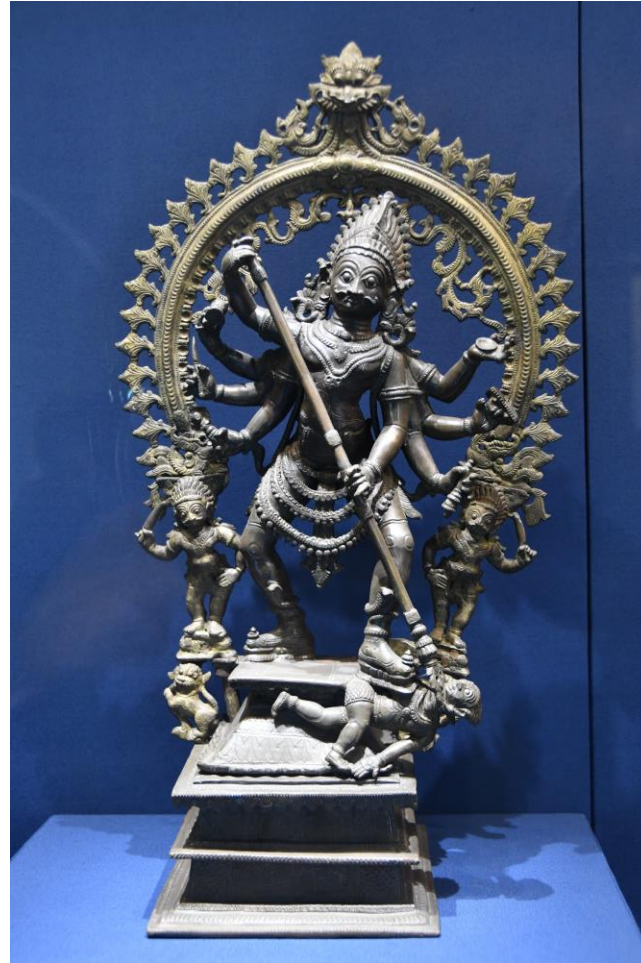
タージマハルホテル

THE MUSEUM

ムンバイ



3階建で展示物多数有り



オーディオ・ガイド
(日本語を含み7ヶ国語)





バザール





街の風景



インドのグルメ

- ◆インドの定食・ターリー；お米やチャパティーといった主食に、数種類のおかずが盛られている。
- ◆ベジタリアン料理
ベジタリアン（菜食主義者）が多いインドでは、野菜を使ったカレー料理の種類が豊富。
バニール（チーズ）を使った料理もこのカテゴリーに入る。
- ◆ノンベジタリアン料理
インド料理に使われる一般的な肉は、チキンかマトン。
ビーフ（水牛）やポークが食べられるところもある。
シーフードも含まれる。
- ◆タンドゥーリー料理
肉などの素材をヨーグルトやスパイスに浸して味付けをし、タンドゥーリーという土窯を使って焼く料理。
- ◆飲み物
インドで一般的に飲まれている飲み物はチャイ、チャイはミルクと砂糖が入ったものが一般的であるが スパイスが入った「マサーラー・チャイ」もインドならではの飲み物。
インド産のビールはキングフィッシャーやマハラジャビールなどがある。





交通事情



(マルチ・スズキ) 44%

インド市場 可能性と課題（１）全般

・ 首相	ナレンドラ・モジ（2014～）	習近平（国家主席）	赤字は中国
・ 政治体制	共和制	人民民主共和制	
・ 構成	29州 + 7連邦直轄地		
・ 人口	12.7億人（世界2位）	13.9億人（世界1位）	
・ 面積	328万km ² （世界7位）・・・中国の約1/3	960万km ² （世界4位）	露・カナダ・米
・ 人口密度	368人/km ² （世界17位）日本350、バングラ1127	140人/km ² （世界53位）	
・ GDP	2兆900億US\$（世界7位） 一人当US\$1747（世界143位）	12兆146億US\$（世界2位） 8643US\$（世界74位）	
・ 言語	22公用語 + 1652方言	漢語（中国語）	
・ 宗教	ヒンズウ（80%） イスラム（13%） キリスト（2.3%）、シーク、仏教、ジャイナ	仏教・イスラム・キリスト	
・ 軍事	正規兵力132万人（世界4位）核保有	203.5万人 核保有	
・ 日印関係	日本ODAの最大受益国（2005～） 包括的経済パートナーシップ協定（2010）	日印安全保障共同宣言（2008）	

インド市場 可能性と課題（2）可能性

若い人口構造

- ・ 若年人口 世界の19% (2.4億人) 2、2億人
- ・ 平均年齢 27歳 (米国37.6歳、日本46.1歳)、 36.7歳
- 人口 2025年には世界1位へ (2060年まで増加)
 - ・ 生産年齢人口ピークは2040年
 - ・ 中間層 (US \$ 5000～35000) 人口2020年に中国を超える

人材が豊富

- ・ 英語使用人口は世界1位
 - ・ 工科大学数が世界最多 3393校 572校
- ブラジル561、ロシア482

安定した政権 次期総選挙は2019年5月

インド市場 可能性と課題 (3) 課題

エネルギー問題

- ・ 非エネルギー資源国
- ・ 慢性的な経常収支赤字

煩雑な各種規制

- ・ 広範な外資規制（石油ガス精製、通信、防衛、証券取引場等）

貧困格差

- ・ 低所得層（年収US \$ 5000以下） 減りつつあるが高水準（全人口の50%）

日本郵船インド現地法人訪問

海運業 NYKLine Ltd

海運業

NYK Auto Logistics Ltd

自動車物流

Yusen Logistics Ltd

倉庫配送サービス

.....

従業員数 5002名、 拠点 54箇所 、 倉庫数/総床面積 68箇所/213,670㎡

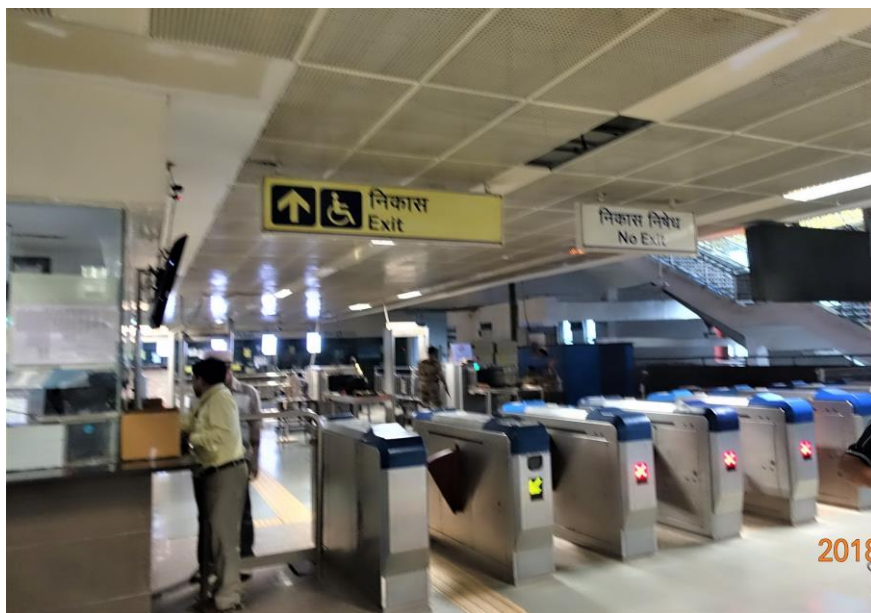
運航トレーラ台数 230台

▼郵船ロジスティクス 本社で会社概要説明後、ビバンディ倉庫見学 倉庫面積 10,000㎡



※自動車物流事業では、インド国内市場でシェア1位（2018年取扱台数200万台超）

陸送、港湾荷役、海上輸送で、完成自動車の物流を取り扱う。将来は鉄道(物流)事業に進出。



◆地下鉄ニューデリー

デリー地下鉄建設計画

JICAは1995年から16年間にわたり支援した。

2011年8月全線開通となり、総延長距離は190 km、東京メトロと同規模の地下鉄ネットワークとなった。

JICAは総事業費の約56%の3748億円の円借款を行った。

施行にあたっては、省エネ、安全管理等、日本の技術支援をおこない、更に日本文化を伴う形のプロジェクト進行を含めて、極めて高い評価を受けている。

今後の計画についてもインド政府からの支援の要望を受けている。

◆ムンバイからアメダバード間の

高速鉄道計画 505 km 2時間、
2023年全線開通目指す。

まとめ

◆インドは

将来の発展に対して、高いポテンシャルがあると感じられる。

若い世代が多い、活気が感じられる

広大な耕作地に裏付けられた＜農業及び農業製品＞

高い言語能力（英語）

高い技術能力（伝統産業、工業製品、IT分野、エンジニア育成）

インフラ構築・整備で基礎力の向上

社会・政治体制 ；大統領を元首とする共和制 議会は二院制 自由主義

◆日本社会、日本人へ

行動を起こし、かつ見聞を広め活性化に繋げる。

